

ささ郷だより

笹川自治振興会 会長 ご挨拶

会長 竹内 寿実

不肖、私が笹川地区の自治振興会長に選任されました。微力な私ではありますが、笹川の皆さんと一体となり、また、東京笹川会の皆様のお力添えを賜りながら、住みよい笹川づくりに真心を持って努めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

東京では桜も散った頃と思いますが、笹川は今、桜が満開で、山野に花々が咲き競い合い、木々の新緑の若葉も今にも芽を出そうとしております。

この自然豊かな私たちの古里笹川が、いつまでも、その輝きを保つために、広く皆様方のご意見を拝聴しつつ、「万機公論に決すべし」をモットーに村づくりを進めてまいりたいと考えておりますので、気軽にお声を掛けていただければ幸いです。

一昨年、神向町内に「ほたる交流館」が完成しました。この施設は、笹川の古民家を改修したもので、低料金で宿泊が可能であり、なつかしい笹川生活も偲んでいただけるものと思っております。ご家族、親戚、同級会などグループ等で活用していただければ必ずや喜んで頂けるものと思っております。

笹川で暮らしている私たちも「笹川 やさしや、土までやさし」と感じていただけるような笹川づくりに努めたいと思っておりますので、東京の地からも暖かいご声援を送っていただければ幸いです。

終わりに、東京笹川会の皆様方の益々のご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

(平成29年4月12日 記)

平成29年度役員

(敬称略)

笹川自治振興会

会長 竹内 寿実

町内会長

- 甲子 長井 大岳
- 築山 竹内 均弘
- 中央 竹内 弘
- 宮平 長井 巧
- 諏訪 折谷 忠行
- 盈進 脇山 考史

笹川公民館

- 館長 竹内 重之
- 主事 竹内 卓
- 書記 谷内 久美子

笹川友愛会

- 会長 勝田 忠温
- 副会長 竹内 康博
- 会計 竹内 きみ子
- 監事 折谷 隆三
- 深松 博幸
- 竹内 益裕
- 顧問 竹内 弘

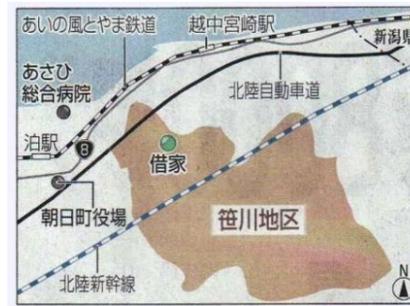
笹川 春祭り 4月15日



去る、4月15日(土) 朝からの雨も午後には晴れて、桜満開の中、笹川諏訪神社境内で、春祭り・獅子舞奉納が行われました。子供会のみんなは、神楽の渡御に元気よく掛け声を掛けながら笹の葉で清め楽しんでいました。



北日本新聞 消えてたまるか！ 朝日町 記者の役場体験記 第2部 山里に暮らす 報道本部 浜松 聖樹



「田舎で暮らすには、近所さんとも、虫ともうまく付き合っていくこと」。そう言っていて豪快に笑うのは、地区の自治振興

朝、目が覚めた。部屋の中を用心深く見回す。引越した当初、大量にいたヘクサンボ(カメムシ)は、ほとんどいなくなっていた。昨年4月、朝日町役場で働くため、笹川地区の借家での生活が始まり、3週間が過ぎた。布団を畳むと、敷布団をめぐると、ひっくり返ったのが、いた。隣のおばちゃんに「ヘクサンボ用」としてもらったガムテープでそっと包み、ごみ袋に入れた。やれやれ。

消えてたまるか！

朝日町

10 会長、小林茂和さん(68)。JRを定年退職した後に温泉旅館などに勤めた。2013年から会長をしている。

第2部 山里に暮らす ▶1◀ 電気柵

生活を守る“とりで”

電圧計が示した数値は20V。問題がなければ80Vほどになるらしく、電線が草木や地面に触れ、漏電しているようだ。電圧が低いと効果が薄れる。小林さんが受け持つ区間は1.5km。民家の裏の山沿いを歩くと、3〜5本の電線が張られた電気柵は、コンクリートの壁や金網のフェンスの上に取り付けられている。

引っかけた。小林さんは軽々とフェンスをよじ登って取り除き、伸びた電線のたわみを直す。教わりながら、同じ作業を体験させてもらった。アップダウンが激しく、急斜面もある。雲間から日が差し始め、汗ばんできた。これを毎週続けているのだ。小林さんが設置より、維持管理が大変」と言うのも分かる気がする。

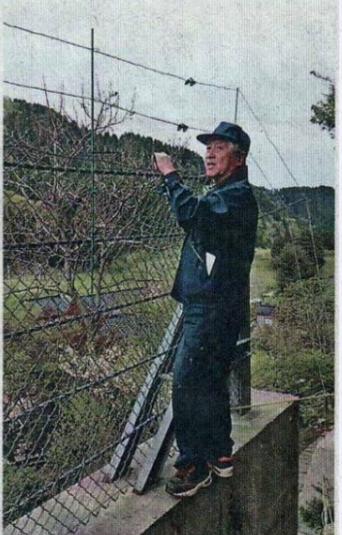
「電気柵がないと、住民が丹精込めて育てた野菜が食べられてしまっただろう。そう思って小林さんに聞くと、「インシシが来る」と危なくて住めないよ」と言う。身の安全に関わる問題なのだ。電気柵は農作物だけではなく、日常の生活を守る“とりで”

自然が身近にある山里に暮らす。人口の流出や少子高齢化が進む中で、集落の暮らしや伝統を守るとうとする人たちがいる。 (報道本部・浜松聖樹)

電気柵の点検に行くというので、同行させてもらった。電気柵は、触れると電気のショックがあり、インシシやサルなどの野生動物が集落や田畑に入るのを防ぐ。山に囲まれたこの地区では、7年前に取り付けられた。集落を囲うように張り巡らされ、長さは6kmに及ぶ。地元で管理組合をつくり、各世帯からの負担金や町の補助などで活動する。点検は週1回、草刈りは月1回行うという。点検は電圧の測定から始まる。

県内 農作物被害9917万円

県によると、県内の本年度の鳥獣による農作物被害額は1月末現在で9917万円。前年度比で702万円(6.6%)減少した。全体の9割をカラスとインシシの被害が占める。カラスが5132万円(前年度比51万円増)、インシシは3888万円(同721万円減)だった。インシシの県内の捕獲数は年々増加しており、本年度は1月末時点で過去最多の3175頭となっている。侵入を防ぐ電気柵の具全体の総延長は2073kmで、富山県から台湾までの直線距離に相当する。



フェンスの上に張られた電気柵を点検する小林さん。一昨年4月、朝日町笹川

ガサツと音がした。5分ほど先の木や草が揺れ、黒い影が見えた。カモシカだ。跳ねるように、山側に逃げていった。「怖いのはクマ」と小林さんは言う。点検中に出くわすと、コンクリートの壁を背にして逃げ場はない。襲われて動けなくなっても、1人ならば気付かれない。リュックにはクマよけのための鈴が付いていた。3時間かけ、担当エリアを回り終えた。電源を入れ、電圧を測る。80Vくらいのはず。表示は「2・7」。えっ。漏電している所を漏らしたのだ。もう一度回らないといけない

消えてたまるか!

記者の役場体験記

朝日町

軽トラックはエンジンをうならせながら、朝日町笹川地区の坂道を上がっていく。ハンドルを握るのは、自治振興会長の小林茂和さん(69)だ。曲がった道を勢いよく走るものだから、揺れる、揺れる。

昨年4月、地元の有志が「朝日ふるさと歩道(中部北陸自然歩道)」という山道を整備するに聞き、手伝うことにした。

集落の中心部から10分ほど上がると、キャンプ場がある三峯グリーンランドの駐車場に着いた。作業するメンバーは小林さんと折谷忠行さん(66)、竹内均さん(56)、佐藤将司さん(38)。軽トラックの荷台にあるチェーンソーや鎌を手にし、森の中の道に入った。

雲一つない青空の下、鳥のさえずりを聞きながら、山の中を進む。

道沿いに枯れ木があった。竹内さんがチェーンソーのエンジ

12

第2部 山里に暮らす ▶3◀ ふるさと歩道



周辺に棚田の跡が見える「朝日ふるさと歩道」 昨年4月、朝日町笹川

ンをかける。刃を木に入れると、で足元のスギの葉を脇によけて、プオーとけたたましい音がし、細かい音が飛び散る。油と木のおいがする。木が傾き、斜面に倒れた。お見事。

のせせらぎが聞こえ、電気柵と畑が見えてきた。「ふるさと歩道」という名の通り、地域の歩みをたどる道だった。

山に集落の歩みの跡

中部北陸自然歩道は、全国にある「長距離自然歩道」の一つ。環境省によると、富山、新潟、群馬、石川、福井、長野、岐阜、滋賀の8県を通り、総延長は4090*。地域の豊かな自然や歴史、文化に触れ、自然保護に対する意識を高めてもらおうと、設定した。

県内に31コース

「こちらに気付くと、笑顔で「おつかれさまです」とあいさつし、平地を走るようなスピードで登っていった。

消えてたまるか!

記者の役場体験記

朝日町

11

すでに人が集まっている。昨年4月、朝日町笹川の諏訪神社で、春祭りを前に住民総出で掃除が行われていた。

回覧板には、午前7時からと書いてあったはずだ。新参者が遅れてはいけないと思い、20分前に着いたのだが。

ざっと100人。境内で落ち葉をかき集めたり、草刈りをしたりしている。のぼり旗やしめ縄を取り付ける人もいる。

さりげなく作業に交じり、湿った土の臭いがあるスギの葉を抱えて軽トラックの荷台に積み込む。

顔見知りの竹内重之さん(61)がいた。地元の建設会社「竹内組」の社長だ。集合時間を間違えたのかと思って聞くと、「みんな集合に集まるのはぎりぎりやけど、掃除に来るのは早い」と笑う。

近くにいいたおばあさんも「みんな働き者やから」と言う。○の婿さんけ?」と聞かれたので、役場で働くために最近住み

第2部 山里に暮らす ▶2◀ 春祭り

始めた新聞記者だと説明し、誤解を解いておいた。見渡すと、年配の人が多く、地区の高齢化率は46%で、だいたい2人に1人が65歳以上だ。人口は50年前には千人ほどいたが、今は300人を切る。

「20代の男性が隣に座り、聞いてきた。屋号は先祖の名前や家の場所などを由来とし、それぞれの家に付いている名前だ。地区内には竹内や長井、折谷などの名字が多く、屋号があれば区別しやすい。町内会の連絡票に「長右衛門(ちようよむさ)」

準備も本番も住民総出

市内町(34.3%)。一方、低いのは舟橋村(20.7%)、富山市(28.8%)、砺波市(28.9%)、滑川市(29.3%)、射水市(29.4%)の順となっている。高年齢率が50%を超える集落は「限界集落」とされる。

県内高齢化率31%

県内の高齢化率(65歳以上の人口が総人口に占める割合)は、昨年10月現在で31.1%。少子高齢化が進み、10年前より7.3ポイント上がった。県内の市町村別では、高い順に朝日町(42.2%)、南砺市(36.9%)、氷見市(36.7%)、小矢部市(35.1%)、



春祭りを前に、諏訪神社を掃除する住民たち 昨年4月、朝日町笹川

子どもらの勇壮な舞を笑顔で見守っていた。祭りを楽しみにしているのがよく分かる。

その夜、若い人が集まるという飲み会に誘われた。向かったのは「共生の里 さく郷」という公民館が入った施設で、20年余り前に閉校した笹川小学校の敷地に立つ。

「屋号はどうするんですか」(年齢、肩書は当時)

消えてたまるか!

記者の役場体験記

朝日町

深い緑の山の向こうに、青空がのぞく。絶好の運動会日和だ。昨年10月、仮住まいしている朝日町笹川地区の「ふれあい体育祭」に参加した。会場は旧笹川小学校の跡地にあるグラウンドだ。

数日前に、地元の町内会でお出場の競技の打ち合わせがあった。役場で夜の会合があったので、適当に名前を入れておいてほしいと伝えておいた。

当日に出場メンバーの名簿を見せてもらった。全11種目のうち、7種目に出ることになっている。「適当に」とは言ったけれど、ちよっと多い気がする。開会式では、会場に集まった全員で「若い力」を歌った。この歌は小学校か中学校の時に来たものだ。「競え青春」と口ずさんだものの、グラウンドを走り回った青春時代は20年以上も昔の話。念入りにストレッチをしておいた。

中学生以下を対象にした障害物競争が始まった。保育所や小学校に通う子どもたちがグラ

第2部 山里に暮らす ▶5◀ 子ども

14

ワンドを駆け抜けていく。放送係の女性が本部テントで実況する。子どもの名前を一人一人紹介していたのだが、顔と名前が一致せず、アナウンスに詰まってしまう。

近年、自然豊かな環境を求め、Iターンや孫ターン(祖父母の

地元への移住)してきた家族が増えたためだろう。地区は移住者の受け入れに積極的で、昨年2月には小さな子どもが5人いる一家が大阪から移り住んだ。子育て世代の移住は、約2700人の地区の高齢化率(65歳以上の人口の割合)に影響を与え

た。2015年4月時点で町内10地区で最も高い47.2%だったが、16年4月には1.2%低下。境地区(48.1%)に次いで2番目の高さとなった。祭りで獅子舞をしていたのも移住してきた子どもたちだった。障害物競走では子どもたちが

いた。同じチームのお年寄りに「意外とうまい」と言われた。運動会は参加してみれば、なかなか楽しい。こうした行事が地域の住民同士の気持ちをなぐもつのだと、当たり前のごとをあらためて感じた。笹川地区での暮らしは、8カ

将来を担う希望に



青空の下、競技を楽しむ住民たち
昨年10月、朝日町笹川

帯のうち、世帯主の年代は「20代」が53世帯(36.8%)でトップ。「30代」が51世帯(35.4%)、「40代」が18世帯(12.5%)と続く。「50代」は12世帯(8.3%)、「60代」は6世帯(4.2%)。定年後の世代より、若い世代が多い傾向にある。

15年度移住者46人

市のまともでは、県や市町村の窓口などを通じて県外から移り住んだ人は、2015年度が462人だった。統計を始めた08年度以来、過去最多となった。08~15年度の8年間の累計は2550人となっている。15年度に移住した144世

網をくぐっていく。一緒に競技を見ていた同じ町内会チームの深松隆さん(54)は「これから10年は安泰」と笑った。将来を担う子どもは地区の希望だ。

月間限定の単身赴任だ。ちょうどこの日、自宅のある黒部市内の地区でも運動会があった。同じ青空の下で、妻や娘が出ているはずだ。一方の自分は、仕事を理由に参加することがない。

地区の体育祭の名物が「軽輪競走」。自転車、後ろから棒で押して転がすリレー形式の競技だ。

これを機に、出よう。たぶん参加すると思う。忙しくなかったら、たぶん…。(年齢、肩書は当時) 第2部おわり (報道本部・浜松聖樹)

若い人が勢いよく転がし過ぎ、コースを大きく外れると、笑いが起きた。体力よりも経験がものをいう競技らしく、年配者がうまい。

学校登山や町を挙げた行事に協力する住民たちを取り上げる第3部を、3月下旬から始めます。15日に番外編として、朝日町の限界集落を訪ねた特集を掲載します。

消えてたまるか!

記者の役場体験記

朝日町

東京駅は人であふれかえっていた。北陸新幹線から山手線に乗り換え、有楽町にあるNPO法人「ふるさと回帰支援センター」に向かう。田舎暮らしを希望する人に情報を提供し、相談を受けている。

昨年6月、朝日町笹川地区の自治振興会長、小林茂和さん(69)がセンターに立ち寄るといので、同行した。フロアには若い人が多い。都市部から地方への「田園回帰」の流れは確かにあるようだ。

小林さんは富山県のブースに行き、担当者に地元を紹介するパンフレットを手渡す。「笹川をよろしくお願いしますよ」と何度も言っていて、売り込む。

地区は移住者の受け入れに力を入れており、県のモデル地域に選ばれている。町は2015年に地区内の古民家を改装して移住体験できる施設をオープンさせた。

「全国で競争になっているからね」と小林さんは言う。地方で人口減や少子高齢化が進み、

第2部 山里に暮らす ▶4◀ 笹川出身者

13

移住者と呼び込む取り組みは過熱中。アピールは欠かせない。

東京に来たのは、関東に住む地区出身者でつくる「東京笹川会」の総会に出るためだった。会場となった品川区のホテルには60~80代の会員27人が集まった。笹川の住民は約270人だから、人口の1割に当たる。

会長の長井清武さん(71)は「神奈川県相模原市」があいさつ

し、ふるさと笹川地区の稲作グループの取り組みを紹介した。グループは50代を中心とした地元住民らでつくる。高齢者が増え、跡継ぎがない田んぼの担い手として、コメを作っている。総会にはグループのメンバーも駆け付け、「おいしい笹川産米を味わってください」と購入を呼び掛けた。

出身者たちはコメを買っただけではなく、故郷の神社などに寄付し、ふるさとを支えている。懇親会になり、会場はにぎやかになった。思い出話に花が咲く。高度経済成長期に仕事を求め、親戚を頼って上京した人たちがいた。都内の国立市に移り住んだ人が多く、「笹川国立村」と呼ばれていたそうだ。

別のテーブルでは、1947~49年のベビーブームに生まれた団塊の世代の人たちが集まり、盛り上がりつつある。ある男

戦後に親から継ぐ田んぼがなく出て行った人たちがいた一方、半世紀がたった今は担い手不足が問題になっている。そして、若者が少ない集落の存続のため、都市部で移住を呼び掛ける。時代の流れとはいえ、不思議な感じがした。

次男三男出て行くもの

「壁ねり唄」をうたう折谷さん(奥)や東京笹川会員たち都内のホテル

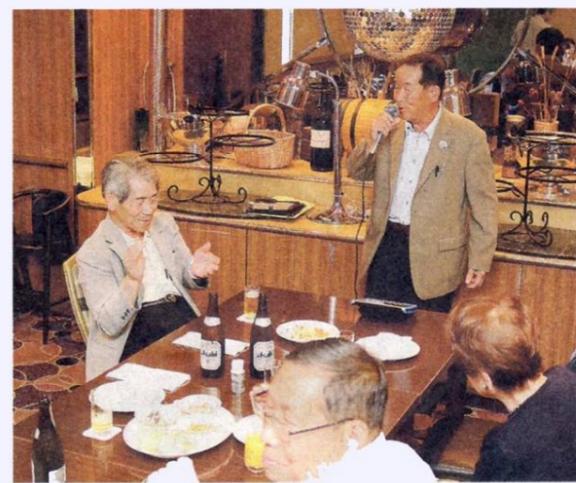
性が「笹川は土地が狭くて継ぐ田んぼも少ないから、次男や三男は『外へ出て行くもの』と頭と体で理解していた」と話す。

谷隆三さん(76)がマイクを握り、伴奏なしでうたい始める。へそたそらたよ、壁ねりやそらた。

高度成長で転出超過
県内の社会動態(転入出に伴う人口の動き)は、高度経済成長期を迎えた1955年から毎年4000~8000人台の大幅な転出超過(社会減)が続き、ピークは69年の8404人だった。

その後は転出超過の人数が年々減少し、80年は1年だけ転入超過(社会増)となった。翌81年からは再び社会減に転じた。バブル経済崩壊後の93年からは5年連続で社会増だった。2006年以降は10年連続で転出超過だったものの、16年は226人の社会増となった。

みんなが合いの手を入れながら、一緒に口ずさむ。集落に伝わる「壁ねり唄」だ。会員たちが若い頃、地区内で家を新築する際には住民が総出で手伝ったといい、壁の材料となる土を練って塗るときにうたったそうだ。笹川地区が「一村一家」と呼ばれていたという話を心と思いつ出した。(年齢、肩書は当時)



「壁ねり唄」をうたう折谷さん(奥)や東京笹川会員たち都内のホテル



ささ郷だより

笹川友愛会 旅行記

去る、3月29日～30日、笹川友愛会では、善光寺、真田三代記で有名な上田城、そして松本城、旧開智学校および大王わさびなどに旅行致しました。両日とも晴天に恵まれ楽しいひと時を過ごしました。
参加者数は、笹川友愛会30名、東京笹川会4名、合計34名でした。

善光寺

善行寺は、無宗派の単立寺院で、日本最古と伝わる[一光三尊阿弥陀如来]を本尊とし、善光寺聖の勧進や出開帳などによって、江戸時代末には、「一生に一度は善光寺詣り」と言われるようになったそうです。

今回は、ガイドさんに引かれてのお参りとなりました。



上田城址公園

上田城は、信濃国小県の真田本城主の真田昌幸が当主であった真田氏により、1583年(天正11年)に築城された平城で、天正11年、天正13年、天正18年と何度かの過程を経て築城されました。

1585年、1600年と二度にわたる真田氏と徳川軍との上田合戦で知られていますが、昌幸が属した西軍が関ヶ原の戦いで敗れ、昌幸が九度山に配流となり、1601年に上田城は徳川軍に破却され、堀も埋められました。

現在残っている城は、仙石忠政によって寛永年間に再建築されたものだそうです。



城壁に感嘆する皆さん。
子供の頃は、真田幸村率いる、猿飛佐助、霧隠歳三などの十勇士物語に夢中になったこともありましたっけ。



宴会

最初に、竹内弘会長の挨拶あり、その後会食・余興に入りました。余興では歌名人・迷人による歌唱、そして武田節・手酌酒・一円玉の旅がらすなど踊りが披露され、最後には全員で盆踊りを踊りました。折谷俊彦さんの挨拶で締めになりました。引き続き二次会に移り、カラオケなどに興じました。



松本城

安土桃山時代末期・江戸時代初期に建造された天守は国宝に指定され、城跡は国の史跡に指定されている。松本城と呼ばれる以前は深志城(ふかじょう)といわれていた典型的な平城。

本丸・二の丸・三の丸ともほぼ方形に整地されていて、南西部に天守を置いた本丸を、北部を欠いた凹型の二の丸が囲み、さらにそれを四方から三の丸が囲むという、梯郭式に輪郭式を加えた縄張りです。これらは全て3重の水堀により隔てられていたそうです。



旧開智学校

明治時代初期の洋風校舎。
工事費は、約1万1千円というかなり高額なものでしたが約7割は町民の寄付だったそうです。町民の開智学校に対する期待はとても大きなものだったのでしょう。印象的だったのが子守学校(子守のために就学できない主に女子に対する教育のこと)、などで、当時教育の機会を得られなかった子供たちを教育していたことでした。...



タケ先生による授業を受ける(元)子供たち

大王わさび園

紙面の都合で省略